

◆技術交流

ヒレジャコのケージ養殖技術交流

與那嶺 盛次

1. 目的

糸満漁協介類養殖研究会は、現在ヒレジャコやヒメジャコ等の養殖を実施しているが、生残率が低い状態である。また、今年度新技術定着試験でヒレジャコのケージ養殖試験を計画している。そこで、試験を実施する前にヒレジャコのケージ養殖技術を開発した沖縄県水産試験場八重山支場やヒレジャコケージ養殖の先進地である八重山漁協のヒレジャコ養殖漁業者と技術交流を実施した。

2. 交流先

沖縄県水産試験場八重山支場
八重山漁業協同組合

3. 日程

平成14年7月10日（火）～7月11日（水）

4. 参加者

糸満漁協介類養殖研究会
東恩納 正裕、小堀端 昭広
糸満漁協介類養殖研究会事務局
砂川 隆（漁協職員）
糸満市経済部水産課
玉城 寿男（水産係長）
沖縄県水産試験場普及センター
與那嶺 盛次（専門技術員）
金城 武光（主任技師）

5. 交流地の概要

八重山漁協のある石垣島は、那覇から400kmの地点に位置し、沖縄県内で沖縄本島西表島に次ぐ3番目に広い島である。風光明媚な島で沖縄でも有数の観光リゾート地となって

いる。平成10年の観光入客数は約52万人で、観光収入は約515億円になっている。

八重山漁協の組合数は平成13年3月31日現在正組合員376名、準組合員107名の計487名となっている。漁業としては、一本釣、曳き縄、電灯潜り、マグロ延縄、セイイカ漁が主で、近年、モズク養殖、魚類養殖、シャコガイ類の養殖も盛んになりつつある。平成12年度の漁獲高は、1,903トン、生産額10億1,400万円である

6. 交流内容

平成14年7月10日午前10時八重山支庁農林水産振興課の吉田普及員の案内で、沖縄県水産試験場八重山支場に到着した。藤本支場長により八重山支場の業務説明をうけた後、岩井研究員からヒレジャコのケージ養殖方法の説明を受け、資料を頂いた。ケージ養殖場所は波浪の影響が少なく透明度と潮通しが良い場所で、ケージは波浪で転倒しないよう海底にしっかりと固定する必要がある。

稚貝はケージに定着するまで3～4日間要するため、稚貝撤く日から数日間は海の穏やかな日を選ぶ。稚貝の密集は大量へい死を引き起こすため、稚貝はケージ全体に均一になるようにまんべんなく撤くようにする。密集した稚貝は剥がしてもう一度撤き直す必要があるとのことであった。新技術定着試験に使用するヒレジャコ稚貝は、8月に1,000個を殻長3cmサイズで譲り受けることになった。

ヒレジャコ養殖方法の説明を受けた後、岩井研究員に現在中間育成しているヒレジャコ稚貝や八重山支場の施設を見せてもらった。また、吉田普及員が制作中のヒレジャコ養殖ゲージが支場にあったため、制作方法について説明をし

でもらった。ケージは幅1m、長さ2m、高さ0.3mで蓋があり、四隅に0.3mの足をつける。ケージの骨組は、亜鉛アングルか鉄筋を溶接して作る。底面部は、一番下からワイヤーメッシュ、ネトロンネット9mm、4mm、30mmの順に張る。30mmネトロン（仕切）は、養殖開始時に稚貝の密集を防ぐ効果がある。底面部ネットと仕切の間に隙間ができると、隙間に定着した稚貝が潰れるのでネットと仕切をインシュロックタイで固定する。

午後1時から八重山漁協会議室にて、実際にヒレジャコ養殖を行っている組合員の池田元氏よりヒレジャコの養殖方法について説明を受けた。池田氏によると8mmサイズのヒレジャコ稚貝を県水試八重山支場より購入するが、殻長3cmサイズまで陸上水槽で中間育成してからゲージに收容している。その方が生存率は高いとのことであった。また、大きくするためにはケージ養殖だけでは不十分で、殻長約20cmサイズから地蒔き式養殖に変えた方がよく太るとのことであった。そのため、養殖の漁業権は貝類小割式養殖とシャコガイ地蒔き式養殖を重ねて取得している。なお、マンタ（エイ）が、養殖シャコガイを補食するためモズク網を地蒔き式養殖シャコガイの上に天釣りして保護する必要がある。そのままほっておくとマンタは、家族や親類縁者を引き連れてシャコガイを食べに来るそうである。

午後3時から石垣市の中間育成施設で殻長約3cmサイズまで中間育成しているヒレジャコを見学した後、池田氏のシャコガイ養殖漁場に船で案内してもらった。養殖漁場では、池田氏、小堀氏、筆者の3人で潜水観察を行った。池田氏のヒレジャコ養殖ゲージ枠は鉄筋でできており、底面部ネット上にサンゴ礫を敷き詰めてあった。ヒレジャコはサンゴ礫に定着させた方が成長が良く、取り上げも便利であるとのことであった。養殖ゲージは、口の字に設置されその内側に地蒔きの殻長30cm近いヒレジャコやヒ

レナシジャコが養殖されていた。そのヒレジャコやヒレナシジャコを取り上げて船上で観察したところ、確かに大きく丸みがあった。また、地蒔き養殖シャコガイの上には、モズク網を浮きで天釣りしてマンタの食害を防いでいた。その他、ヒレナシジャコのケージ養殖もされており、良好な成績であった。

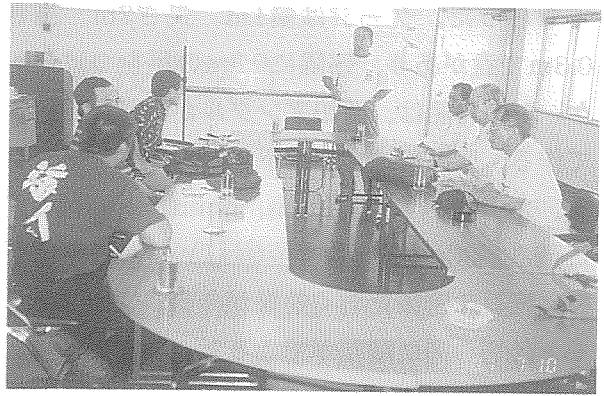
午後7時から池田氏やシャコガイの小割式養殖を行っているグループ（南活会）の皆さん、藤本支場長、八重山漁協職員、八重山支庁普及員らと一っしょに懇親会を行った。懇親会では池田氏が養殖したヒレジャコやヒレナシジャコの食べ比べをした。成長はヒレナシジャコが速いようであるが、味はヒレジャコの方が良好であった。値段もヒレジャコの方が高いとのことであった。その他、シャコガイ養殖の大変有意義な情報を教示してもらい、懇親を深めた。

7. 交流所感

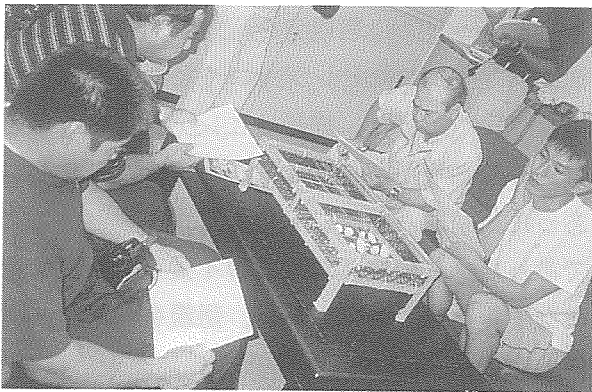
糸満漁協介類養殖研究会が、新技術定着試験としてヒレジャコのケージ養殖試験を実施する前に技術開発を行った県水試八重山支場や実際にケージ養殖を行っている漁業者と意見交換ができ、現場を視察できたことは大変参考になった。特にケージ養殖漁場は、波浪の影響がなく透明度と潮通しが良い場所を選定し、ケージは台風等の波浪でも転倒しないよう海底にしっかりと固定することが重要である。また、殻長8mmサイズの稚貝を殻長3cmまで陸上水槽で中間育成してゲージに收容していることが生残率が高い一つの要因と考えられる。

また、糸満市地先は汚泥等の影響が石垣市地先よりあると考えられるため、稚貝收容時期はケージの目詰まり掃除等を随時行う必要があると思われる。そのときには、密集した稚貝は剥がしてもう一度均一に撒くようにする。最後に今回の技術交流でお世話になった池田元氏をはじめ八重山漁協の皆さん、県水試八重山支場藤本支場長、岩井研究員に対し心より感謝申し上げ

げます。技術交流で得た成果は、ヒレジャコ養
殖試験に活かしたいと思います。



④池田氏よりヒレジャコ養殖方法説明
(八重山漁協)



①岩井研究員よりヒレジャコ養殖方法説明
(水試八重山支場)



⑤池田氏のヒレジャコ養殖場潜水観察



②中間育成中のヒレジャコ稚貝見学
(水試八重山支場)



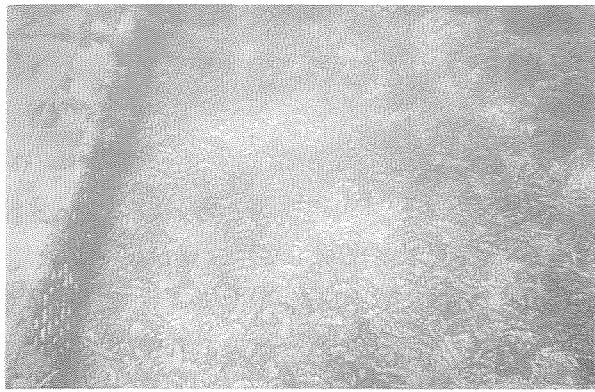
⑥池田氏のヒレジャコ養殖ケージ (鉄筋枠)



③制作中のヒレジャコ養殖ケージ (骨組み)



⑦ケージ養殖中のヒレジャコ (池田氏)



⑧ケージ養殖中のヒレジャコ (池田氏)



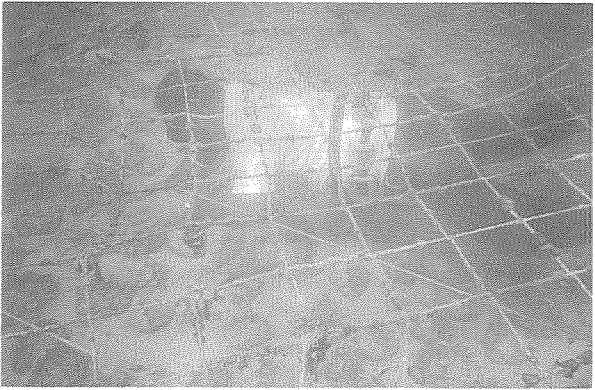
⑪地蒔き式養殖中のヒレジャコ



⑨地蒔き式養殖シャコガイのネット保護
(エイ対策)



⑫地蒔き式養殖中のヒレナシジャコ



⑩地蒔き式養殖シャコガイ潜水観察中の池田氏